

簡単リフォームで暖かさを大幅アップ 真空ガラスで断熱&省エネ

6.2ミリの薄さでありながら、高い断熱性能を誇る真空ガラス「スペーシア」。手軽に交換できるため、住宅リフォームの分野で人気が高いが、いま、官公庁や非住宅の分野でも注目を集めている。そこで、真空ガラスのリフォームを行った病院に伺った。

医療法人愛の会 理事長 光風園病院 院長 木下 毅氏



山口県下関市の郊外、長府駅から坂を上ると光風園病院は現れる。振り返ると街並を一望でき、周防灘を遠くに望む絶景の立地だ。この地の気候は穏やかではあるが、冬場の最低気温は5℃くらいになるという。

光風園病院は、戦前に結核療養所からスタート。1978年以降は老人の専門医療を考え、整備・拡床してきた。「昔ほどの寒さはなくなってきましたが、それでも冬場は冷え込みますね」と、院長の木下毅さん。

「病院では特に病室の温度に気を使っ

ています。スペーシアへの交換は温度管理をするうえで、とても有効でした。『夜勤のときでも深々と冷え込むことがなくなった』と、看護師からも好評です」

通常のオフィスなどと違い、24時間活動が止まらない医療施設の場合、オフィスアワーだけでなく、冷え込む夜の対策も重要となる。

建物全体の断熱は窓ガラスがポイント

さて、断熱の話。建物の熱がどの部位から出入りするかという調査があ

る。その中で窓ガラスにあたる開口部は圧倒的で、夏場は約71%、冬場は約48%^{*1}にのぼると言われている。そこで、この熱の出入りしやすい窓ガラスを上手に断熱すれば、より少ないエネルギーで効率よく温度管理ができることになる。

光風園病院では、当初西日対策のために遮熱フィルムを貼ることを考えており、ガラス施工会社の宮崎硝子に相談を持ちかけた。遮熱性能と断熱性能のバランスに優れたスペーシアが病室を快適にし、省エネにも効果的と考えた宮崎社長はスペーシアのサンプルを用意した。木下院長は両者の違いを比較し、性能差を体感したうえでスペーシアの採用を決めた。

病院でのガラス交換施工は、患者の負担を考え、少しずつ行い、最終的には、全体で6カ月の日数を要した。それでも、スペーシアの場合、ガラスだけの交換なので、サッシ交換を伴うリフォームに比べてはるかにスムーズであった。

「今回の採用は、エネ革税制という優遇制度も後押しになりました。いま、この制度は終了していますが、窓ガラスの断熱化は省エネルギーの柱なので、同様の措置は今後ともいろいろな形で出てくると思います」と宮崎社長。

その断熱効果を体感した木下院長は、自宅の窓ガラスもスペーシアに交換。新築中の病棟や、既存の施設もスペーシアにすることを計画している。

*1 日本建材・住宅設備産業協会試算



回復期リハビリテーション、慢性期や認知症の医療に力を入れる病院

●光風園病院

所在地	山口県下関市長府才川2-21-2
総床数	210床
築年数	34年
施工時期	2011年9月～2012年3月
ガラス品種	スペーシア
ガラス㎡数	1,670㎡

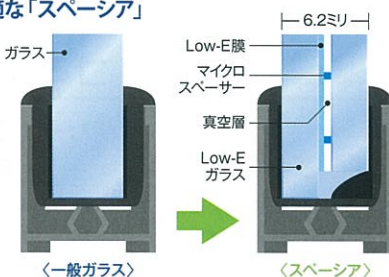


宮崎硝子株式会社
代表取締役
宮崎 隆氏

遮熱フィルムの相談を受けましたが、「スペーシア」の資料も用意して実際に効果を体感していただいたうえで、「スペーシア」を選んでいただきました。真空ガラスの断熱性能は圧倒的なので、寒さ対策を考えている方にはお勧めですね

リフォームに最適な「スペーシア」

ほとんどの場合、サッシを替えずに、ガラスだけ交換できるスペーシア。真空層を設けた特殊構造だから、6.2ミリの厚みで、一般ガラスの4倍の断熱性能を生み出す



お問い合わせ

日本板硝子ビルディングプロダクツ株式会社

〒105-0013 東京都港区浜松町1-2-4 住友不動産東新橋ビル6号館1F ☎ 0120-498-023 (9:00～12:00、13:00～17:30〈定休日：土・日・祝日〉)

<http://shinku-glass.jp/>

〈資料請求番号 18〉